12表現技法と解釈⑴

１　次の和歌について、下の問いに答えよ。

Ａ　ひぢてすびし水の凍れるを

　　　（　ａ　）立つけふの風や解くらむ

Ｂ　山里は（　ｂ　）ぞさびしさまさりける

　　　人目も草も①かれぬと思へば

Ｃ　（　ｃ　）ぬと目にはやかに見えねども

　　　風の音にぞ驚かれぬる 藤原

Ｄ　なき身にもあはれは知られけり

　　　立つ沢の（　ｄ　）の夕暮れ

Ｅ　暮れてゆく（　ｅ　）のみなとは知らねども

　　　に落つの

＊語注

＊袖ひぢて…袖をぐっしょりぬらして。

＊むすびし水…手ですくった水。

＊さやかに…はっきりと。

＊心なき身…（世を逃れて）俗世間の感情を捨てた（わが）身。

＊鴫…渡り鳥で、多く水辺に住む。

＊宇治の柴舟…宇治川（京都府宇治市）を下る、柴を積んで運ぶ舟。

問１　（　）ａ～ｅに入る季節をそれぞれ漢字一字で答えよ。

ａ＝（　　　）　　ｂ＝（　　　）　　ｃ＝（　　　）

ｄ＝（　　　）　　ｅ＝（　　　）

問２　――線部①に使われているに漢字をあてると、どれになるか。最も適当なものを次から二つ選び、記号を○で囲め。

ア　涸れ　　イ　枯れ　　ウ　借れ　 エ　過れ　　オ　離れ

問３　次のを持つ歌を選び、記号で答えよ。

①　春立ちける日よめる　（　　　）

②　秋立つ日よめる　　　（　　　）

問４　次の項目に該当する和歌をそれぞれ選び、記号で答えよ。

①　句切れのある歌　＝（　　　）（　　　）

②　倒置法を使った歌＝（　　　）

③　体言止めの歌　　＝（　　　）（　　　）

２　次の和歌について、下の問いに答えよ。

Ａ　の山辺に咲ける桜花雪かとのみぞあやまたれける

Ｂ　雪降れば冬ごもりせる草も木も春に知られぬ花ぞ咲きける

紀　　貫之

Ｃ　冬ながら空より花の散りくるは雲のあなたは春にやあるらむ

Ｄ　またや見のの桜狩り花の雪散る春のあけぼの 藤原

Ｅ　朝日かげにほへる山の桜花つれなく消えぬ雪かとぞ見る 藤原

＊語注

＊み吉野…奈良県吉野郡。「み」は美称の接頭語。

＊交野…現在の大阪府市あたりの平野。

問１　句切れのない和歌を記号で答えよ。

（　　　）（　　　）

問２　Ａ～Ｅの和歌は「花」と「雪」のどちらを見ているのか。それぞれ答えよ。

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）

Ｃ＝（　　　）　　Ｄ＝（　　　）

Ｅ＝（　　　）

【解答】

１　問１　ａ＝春　ｂ＝冬　ｃ＝秋　ｄ＝秋　ｅ＝春

　　問２　イ・オ

　　問３　①Ａ　②Ｃ

　　問４　①Ｂ・Ｄ　②Ｂ　③Ｄ・Ｅ

２　問１　Ｂ・Ｃ

　　問２　Ａ＝花　Ｂ＝雪　Ｃ＝雪　Ｄ＝花　Ｅ＝花

ポイント

１　問１　Ａ凍っていた水を「けふの風」が解かしそうな「春」。

　　　　　Ｂ「人目も草もかれ」る、さびしい「冬」の山里。

　　　　　Ｃ依然、暑くはあるが、一陣の風に「秋」を感じ取る。

　　　　　Ｄ「鴫」は「秋」の鳥。高名な三夕の歌の一つ。

　　　　　Ｅ同じものを「秋」は「霧」といい、「春」は「霞」という。

　　問４　①Ｂ「さびしさまさりける」、Ｄ「あはれは知られけり」で句切れ。

　　　　　②Ｂ「人目も草もかれぬと思へば、さびしさまさりける」が倒置されている。

　　　　　③体言止めは、Ｄ「秋の夕暮れ」、Ｅ「宇治の柴舟」のような名詞で止めること。